

RCC スクール

「#湯崎知事と語ってみた」 in 庄原

とき 令和4年8月18日（木）

ところ 県立広島大学庄原キャンパス

目次頁

開会	2
自己紹介	2
ひろしまビジョン説明	3
意見交換	4
話題提供（庄原実業高校・東城高校・広島新庄高校）	7
閉会	16

開会

司 会： 「RCCスクール湯崎知事と語ってみた」 supported by 田宮パーツ。ありがとうございます。進行に慣れてきていただきました。改めてよろしくお願ひいたします。「湯崎知事と語ってみた」 supported by 田宮パーツ。今日は庄原の地で行っていきたいと思います。

自己紹介

司 会： まずは参加メンバーを紹介していきたくと思います。自己紹介でお願いいたします。私の方から順番に、まず中神さんからよろしくお願ひします。

中 神： 東城高校2年の中神悠那です。よろしくお願ひします。

司 会： よろしくお願ひします。それでは続きまして、お隣お願ひします。

勝 部： 庄原実業高校3年の勝部です。お願ひします。

司 会： よろしくお願ひします。それでは続いて、お隣もお願ひします。

桐 尾： 庄原実業高校3年の桐尾花鈴です。よろしくお願ひいたします。

司 会： かわいいお名前です。よろしくお願ひします。それでは新庄高校のお二人もお願ひします。井原さんからいきましようか。

井 原： 広島新庄高校の井原舞子です。よろしくお願ひします。

司 会： よろしくお願ひします。

藤 原： 広島新庄高校の藤原夏希です。よろしくお願ひします。

司 会： よろしくお願ひします。そしてこの湯崎知事と語ってみた supported by 田宮パーツ。スペシャルサポーターといたしましてSTU48 峯吉愛梨沙さん、現役の高校生ということで参加いただいております。よろしくお願ひします。

峯 吉： STU48の峯吉愛梨沙です。今日もよろしくお願ひします。

司 会： お願ひします。峯吉さん、随分何回も参加してもらっていますが、どうですか毎回得る刺激とか、どんなこと感じていますか。

峯 吉： 本当に毎回、高校生の皆さんが、すごく自分の考えをたくさんしゃべっているのを見て、自分もしっかりしなきゃなと思わされるので、今日もいろいろな意見がたくさん聞けるのを楽しみにしています。よろしくお願ひします。

司 会： 峯吉さんも第一線で頑張っていますが、高校生のみんなの頑張り聞いて、普段の生活でこんなことをやってみようとか、何か自分の中で変化とあってどうですか。

峯 吉： 前回すごい選挙のこととか、難しいこととか考えていたじゃないですか。私も興味を持ってみようと思いつつあります。

司 会： 思いつつあります。

峯 吉： 思いつつあります。

司 会： 峯吉さん、今日も楽しくよろしくお願ひします。

峯 吉： よろしくお願ひします。

司 会： この企画は広島・東広島・呉、そして今日、庄原が舞台なわけですが。湯崎知事と今、広島の高校生、本音で語り合ってもらおうというものです。この模様はRCC公式アプリIRAWでも配信しております。ぜひ最後まで御視聴いただきたいと思ひます。それでは改めて湯崎英彦知事です。湯崎知事よろしくお願ひします。

湯崎知事： よろしくお願ひします。

司 会： どうですか庄原に来ることも多いと思うのですが、今日は県立広島大学が舞台ということで、なかなか気温も市内とは違いますね。

湯崎知事： ちょっと涼しいですかね。昨日すごく雨が降ってちょっと大丈夫かなと思ひましたが、すごくいい天気になって、田んぼがきれい最高な庄原な感じですよ。

司 会：ほんとそうですね。知事と各地回っていますが、やはり場所、場所結構いろいろな魅力、当然、話をすると課題もあるんでしょうけれども、やはり広島県っていろいろな土地があつていいなと思うんですが、知事いかがですか。

湯崎知事： そうですよ。本当によくいわれますが、海から山まであつて、山は雪国だったりするじゃないですか。各地それぞれ美しいものとか、ずっと伝統で引き継がれていること

とかあって、本当に地域、地域の素晴らしさがあるなと思いますよね。

司 会： 今日割と下調べした感じ、皆さんリアルに知事に聞いてみたいことがある。意見をぶつけたいことがあるような面々がそろっていますので、最後までよろしく願いいたします。

湯崎知事： お願いします。

司 会： それではまず湯崎知事から「ひろしまビジョン」こちらをぜひ皆さんに知ってもらいたいということで、「ひろしまビジョン」の概要を教えてください。お願いします。

ひろしまビジョン

湯崎知事： それではまず、今日、未来を語る上で知ってもらいたいと思う、広島県のビジョン、これは「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」というのですが、これについて簡単に説明をしたいと思います。

このビジョンは今から 10 年後の目指す姿と、その実現に向けた取り組みについてまとめたものになるのですが、これはいわゆる広島県の総合計画というものに当たります。

今から 10 年後、皆さんどうなっているかな。20 代の半ばぐらいで、きっと進学したりとか社会人になったりして頑張っている。場合によっては結婚したりして、人生の分岐点を迎えていたりするんじゃないかと思いますが、これからの皆さんの将来と、広島県の目指す姿というのを重ねてみると共感できるところとか、ちょっと足りないんじゃないかなというところもあると思うので、また後で意見をいただければと思います。

この未来の前提なんですけど、それは今ですよ。今どんなことがあるかということ、いろいろな課題がありますよね、人口減少とか少子化、高齢化とかいうことは、まさに庄原の皆さんとか、実感しているところもあるかもしれませんが、その他にも今戦争が起きていたり、あるいはもちろんコロナがあったり、いろいろな難しい環境がありますよね。

将来、10 年後、本当にこういうことも含めて、どうなっているかを見通すの難しい状況なんですよ。そういう中でも、しっかりとバトンを次の世代に渡していかなければいけないところがあって、「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」の中に基本理念と目指す姿というのを定めています。

それが次のページですが、基本理念というのは将来にわたって「広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から思える広島県の実現なんですけど、目指す姿というのは、県民一人一人が「安心」の土台と「誇り」によって、夢や希望に「挑戦」をしている。仕事も暮らしも。里もまちも。それぞれが欲張りなライフスタイルの実現といっています。

目指す姿の実現に向けては、やはりまず安心が必要です。これが土台になるんだと思います。その上ですごく豊かな庄原の自然もそうなんですけど、あるいは広島はものづくりがとて得意な県なんですけど、そういったいろいろな強み、これが広島県の誇りになると思います。

この「安心」の土台と広島県の強みだったり、いいところ誇りになるもの、これを高めていくことによって、県民の皆さまがどこに住んでいても夢や希望に「挑戦」できる社会を作っていこうということです。

実際に挑戦していくということは、県民の皆さんの働きがいか生きがいになって、それぞれの地域で活力を生み出して、それがまた広島県全体の発展とか活性化につながってくると思っています。これを進める上で、3つの視点というのを持って取り組んでいます。

1つはデジタルトランスフォーメーション、DX、よく最近聞く言葉だと思いますが、今このデジタルが本当に社会の中に入ってきて、否が応でもデジタルが進んでいきます。皆さんデジタルネイティブだと思うのですが、これをうまく使っていくことが、次の時代に非常に大きな鍵になってきます。

それからもう一つが、ひろしまブランド強化というもので、せっかくいいものを持っていても、それが知られたり認知されないと、なかなか評価されないというのがあります。認知されると誇りにつながっていく。

STU48 で素晴らしい歌を歌って、とても素晴らしいパフォーマンスしても、誰も知らなかったら残念だよ。

峯 吉： はい。

湯崎知事： やっぱり STU がみんなに知られることによって、人気も高まってさらにパフォーマンスに磨きがかかっていく、これがひろしまブランドの強化に当たります。

最後に人材育成ですが、先ほども言ったように不透明な、将来がどうなるか分からないような時代になってきていますが、そういう中で自分で物事を考えて、解決策を見つけて実行していく、そういう人が必要になってきます。

そのために赤ちゃんから大人まで一貫した人材育成を進めている。生涯に渡ってずっと学び続けていく、そういうことが非常に大事だと思っています。そういう人材育成を進めていこうということを進めています。

分野としては、これだけたくさんいろいろな分野があります。17の分野に分けて施策を作っていますが、これはそれぞれ分野について話を始めると、とても時間がかかるので、それは今日は割愛しておきますが、こういったそれぞれの分野で、農林水産業なら農林水産業で、先ほどの人材育成とかブランド化だとかそういう視点、あるいは DX というものを視点として持って、それを発展させていこうと取り組んでいるということです。

皆さんが将来のことを考えるときにこのビジョンを思い出して、なんらかの参考にしてもらえると、とてもうれしいと思います。以上です。

司 会： ありがとうございます。

藤原さんは割と世の中のこととか経済のこととか、いっぱい関心があると聞いていたのですが、かなり熱心に聞いていましたが、どうですか県が結構長きに渡ってプラン、展望を考えているじゃないですか、感想いかがですか。

藤原： 広島県が他の県にはないような視点を持って、多くのことに挑戦していこうとしていることがすごくよく分かって、これからもどうなるか楽しみだなと思いました。

司 会： ありがとうございます。藤原さん、結構いろいろなこと興味があるということなので、この後いろいろと深めていきましょう。

意見交換

司 会： それでは、いろいろと皆さんの声を聞いていきたいと思うのですが、まず最初に広島での就職または起業や暮らしについて聞いていきたいと思います。

将来的に広島で事業を起こしたり働きたい、事前に皆さんに聞いていますが、広島でこの後、働いたり事業起こしたり仕事をしていきたいかどうか、マルかバツで正直に答えていただきたいと思います。それでは記入をお願いします。二人一組のところは、ホワイトボード真ん中で割っていただいております。

結構これまで各回、皆さん忌憚なく、三角もバツもマルもいましたのでお願いしたいと思います。

そうか峯吉さん、もう3回目になりますね。1回目がマル、2回目が二重マル。大変ですね毎回。峯吉さん遅めに出しても大丈夫ですからね。

それでは峯吉さん以外いきましょうか。峯吉さん以外挙げていただきます。どうぞ。

マル、井原さんバツ、また聞きましょうね。それでマル、マル。

それでは STU48 峯吉愛梨沙さん、今回お願いします。すみません、アーチェリー？

峯吉： 何か三重マルにしようと思ったんですがインクが、ポチャってなって。

司 会： インクがポチャってなりましたね。

峯吉： ちょうどよかったです。

司 会： マルが二重マルになって、三重マルになりましたが、これはどういう心の揺れ動きがここまであったのですか。

峯吉： そうですね、初めて出したときからマルだったんですが、だんだん皆さんの広島でもっとこうしていきたいというのを聞いて、ああやっぱり広島はいいところなんだなと思って、私もずっと広島に残りたいなという気持ちが強くなりました。

司 会： でも割とこういうお仕事やられていると、全国に出たいとか、もっと知られたいという気持ち、今や世界も行ける時代じゃないですか、かつ今、最新の曲は結構バズっていると聞くんですが、それでも広島でという思いは、どんなところで思っているんですか。可能性も含めて。

峯吉： そうですね。確かにもっと広島以外の、日本とか世界にも行ってみたいなというものがあるのですが、いろいろな県に行った上で、やっぱり広島はいいところなんだなと分かることとかもあるので、将来的にはいろいろなところに行くけれども、最後は広島に戻

- ってきたいなという思いはあります。
- 司 会： これは意見をぶつけ合う場なので一意見ということで、引っ張られずに新庄高校の井原さん、バツとされましたが、どういう理由か教えてもらっていいですか。
- 井 原： 広島は、すごくいいところだと思うのですが、外に出ないと分からないこととか、外に出たからこそ分かる広島のいいところとかあると思うので、広島県外で進学したり働いたりして、その後に広島に戻ってくるのもありではないかなと思いました。
- 司 会： 湯崎知事これは毎回出ますが、当然、広島では学びの環境すごく整えていらっしゃいますが、やっぱりいろいろと学んで持ち帰る福沢論吉じゃないですが、そういった要素っていかがですか。
- 湯崎知事： すごく大事なことだと思いますよね。やっぱり世界は広いし日本も広いので、いろいろな地域のことを知った上で、広島に貢献してもらおうというのもすごくいいことだし、場合によっては、外にいて貢献してくれることも多々あるので、すごく大事なことだと思います。
- 例えばそれこそ東京広島県人会とかね、東京での広島県人の集まりですが、ものすごく人数も多いしすごく活発なんですよ。それでいろいろな会社だとか、あるいは役所だとか政治家の人たちも含めて参加していて、いろいろな形で広島のことをサポートしてくれていたりするので、そういうのもとてもうれしいですよ。
- 司 会： 一方で新聞を見ると、一枚めくったところの下に、知事の1日の動きって結構載っていて、このRCCスクールも時々出ているんですが、結構、積極的に県外とか、いろいろと視察とか会議とか現場に行かれていますよね。行かないと分からないこともあったりするわけですか。
- 湯崎知事： そうですね。僕の3つの視点というのがありまして、県民起点、現場主義、それから成果志向というのですが。現場に行かないと分からないことがありますよね。常に現場に行くわけではないですが、肌感覚が分からないと、分からないこともあるので、そういうところに出かけていくのは大事ですよ。そういう意味で広島と違うようなところ、特に外国は非常に違いますけど、今、問題になっているウクライナとかロシアにしたって、本当にどうなんだろうっていうのは、行ってみないと分からないところありますよね。今行くのはよくないと思いますが、戦争中だからよくないですが、そういうことはたくさんあると思いますね。
- 司 会： そういったことも大きな要素の中で、同じ学校なんですけどマルということで、ここの思いを教えてもらえますか。
- 藤 原： 私は将来、薬剤師になりたいと思っていて、小学校のときに祖父が広島大学病院に入院したことがあって、そのときにスタッフの皆さんが、すごく優しくったのを覚えているんです。それで私もその一員となって働きたいなという思いもあるし、広島に住み慣れていて、安心できる町でもあるのでマルにしました。
- 司 会： うれしいですね。幼いときにそういうことを思うということは、どうですかそのスタッフの方、だいたい一つ一つの行動とか言葉とか印象に残ったんですか。
- 藤 原： すごく印象に残ったのは、お医者さんや看護師さんだけでなく、その周りの医療事務の方とか准看護師さんとか、すごく連携がとれているなと感じて、お医者さんとか看護師さんだけが知っているのではなくて、関わってくださる全ての方が、祖父のことを理解して担当してくださっていたので、チーム医療という言葉もすごくよく聞くと思うのですが、連携が取れているなと思って、それがすごく印象に残っています。
- 司 会： 子どものときにそういったことを経験してそう思うということは、知事、広大病院もそうなんですけど、よそでも頑張っておられると思うのですが、泣けてくるような報告ですもんねこれ。
- 湯崎知事： たぶん医療冥利に尽きるというか、皆さんそう感じるんじゃないかと思いますが、逆に今僕が思ったのは、どんな仕事でもそうやって子どもたちが見ていると思うと、やっぱり手を抜いてできないですよ。ひよっとしたら、それで人生変わっちゃうかもしれないわけですからね。
- 司 会： これはひとごとではなくて、我々もあのときのRCCスクールで放送業界にとかって。
- 湯崎知事： そうそう、そうなんですよ。
- あのとき知事に会ったけど、ろくなことなかったなってなったら、それじゃあ困りますよやっぱりね。
- 司 会： だから大人ってあれなんです、一つ一つ、その人の人生変えるかもしれないし、逆にも出るかもしれないという。

湯崎知事：　そうですね。だから一生懸命やらなければいけない。

司　　会：　本当ですね。ちょっと声張っていきましようかと思うぐらいですが。
　　そして続きましては、桐尾さんはマルとしてくれました。桐尾さんも教えていただいでいいですか。庄原実業の桐尾さんです。

桐　　尾：　私も将来は医療系の仕事に就きたいと考えていて、地元の過疎が進む地域の医療を支えていきたいので残りたいです。

司　　会：　先ほどちょっとお話させてもらったんですが、桐尾さんの住んでいるエリア、医療の状況とかはどうですか。具体的に感じる事とか、家の周りは病院がたくさんあるとかないとか不便に感じた事とか。

桐　　尾：　病院はあまりないです。あっても小さい病院で、あまり安心して暮らすことはできないなと思っています。

司　　会：　知事こういったところが、多分こういうお仕事やられていて、一番難しいところだと思うのですが、これは医療のみならず、交通、インフラ全て、どこまで行き渡らせて、どこまで効率化を図るか、これってすごく葛藤がおりなんじゃないですか、お仕事の中で。

湯崎知事：　そうですね、どうしても一定の人口規模がないと、サービスを継続することが難しいことがありますよね。今、坂上さんがおっしゃいましたが、医療もそうだし交通とかもそうだし、学校教育とかもそうだし、いろいろなことがありますよね。
　　地域医療というのは特に、今すごく大きな課題で、まさに地域医療に携わりたいという若い人がいるのはすごく心強く思います。

司　　会：　桐尾さん地元に残って、地元のそういう状況を変えようということなんですよ。

桐　　尾：　はい。

司　　会：　ぜひその初心で、よろしくをお願いします。
　　それでお隣、同じく庄原実業の勝部さんマルということで、何やりたいとか頭の中でどうですか。

勝　　部：　僕は将来、建築士になるのが夢なのですが、広島県の森林を使った建築物を建てるという目標があるので、広島に残って仕事がしたいなと思っています。

司　　会：　勝部さん、私も展示場とかで見たことがあるんですが、地元の家を建てるときに、地元の木を使うと、いろいろと何かいいこともあったりすると聞くんですが、勉強の中ではどうですか。

勝　　部：　そうですね、今輸入で外国の木材が入ってこなかったりするので、そのためにそれがおきたりというのを防ぐためにも、広島の木材を使って建てた方が、何かあったときにもいいですし、地元の木を使っていると言えば、その家に住む人も安心して住むことができるかなと思うので。

司　　会：　そこなんですよ。湯崎知事、広島県も森の部分と木材の部分、両方すごく力を入れていらっっしゃいますね。現状を教えてください。

湯崎知事：　そうですね。県産材を使って家を建てるとかいうのに助成もしていますし、それから森についても、僕が就任したころ大体年間の広島県産材の生産というのが、原木ベースで15万立方メートルぐらいだったんですが、それを10年間で45万立方メートルに拡大しようとして取り組んできて、大体今そこに来ているような、45万にほぼいくようなところまで来ているんです。
　　この木を使うというのは、今とても問題になっている温暖化にも貢献できますよね。二酸化炭素を木の形に固定して、家とか建築物にすると、それを長く使いますから、そこに固定されることでとても環境にもいいですし、それから森が循環することによって、いろいろな生物多様性だとか、そういうことにも貢献ができるし、とてもいいことだと思います。
　　ただ、なかなかコストが見合わないとか、担い手が減っているとか、いろいろな課題があるので、そういう取組をしっかりとしていかなければいけませんし、あとは建築物も、一般の家というのはあるんですが、もっと大きな建築物、例えば高層ビルとかそういうものにも、できるだけ使っていきたいなと思っていますが、今そういう技術新しくできていますし、ちょっと大きめの、まだ高層ビルというところは急にはなかなか難しいですが、一定の公共建築物なんかには、つまり居住の家じゃない公共建築物ですよ、そういうところに木造で建てる、その技術を建築士の皆さんに勉強してもらったりとか、そういうこともやっています。

司　　会：　庄原実業の勝部さんこういうのを聞いて、将来こんなのを建ててみたいとか、何か

夢があったりしますか。家もあるでしょうけれども、今高層なんかも海外で、結構法律の関係だifu許されているという話なんです。

勝部： 特にはないですが、木を使って広島シンボルみたいなものは、ちょっと作ってみたいと思っています。

司会： 楽しみにしています。ぜひよろしくお願いします。
そして続きまして、東城高校の中神さんはマルということで、その思いを教えてくださいませんか。

中神： 私は広島県の中でも、広島市内に住んだりしたいなと思っていて、広島市内だったら遊ぶ場所もあるし、欲しい物とかも何でもそろふなと思って、あと私は野球が好きなんですけど、カープの本拠地があるので広島にずっと居たいなと思います。

司会： 中神さん、昨日の広島カープの戦いはどうだったですか。

中神： 引分けで終わるかなと思った。

司会： 現実的ですね。引分けだと思いました？最後、うまくいきましたバント會澤が決めて。どうなんですか、やっぱり野球を応援したりするには、今の環境というのは、ちょっとあれなんですか。

中神： やっぱりもうちょっと近くで感じたいなと思って。

司会： そうですか。逆に今トータルでいろいろな生活して学生生活含めて、東城高校界隈で生活していて一番困ることとか、もっとこんなところに住みたいな、足りないなと思うことってどうですか。

中神： 友達と休みの日に遊ぼうとなったときに、遊ぶ場所がなくて結局予定がなくなったりして。

司会： 遊び問題ですね。峯吉さん結構お忙しいでしょうけど、友達、同年代と遊ぼうっていったらどんなこと、どこに行ったりするんですか。

峯吉： 私はやっぱり市内に行って、お洒落なカフェを巡ったりとか映画見たりですかね。

司会： カフェ、映画。

峯吉： はい。カラオケとかですかね。

司会： カフェ、カラオケ、映画。中神さんカフェは近くに。

中神： カフェはあります、

司会： カラオケは。

中神： 多分なかった気がする。

司会： 映画は。

中神： 映画館もなかったです。

司会： 今のところカフェしかないということで、やっぱりその辺なんですね。ならではのいいところってどうですか、見つけることできていますか。

中神： やっぱり町が穏やかなので、落ち着きたいときとか。

司会： そうなんですね。いろいろといい面あれば悩みもあると、分かりました。ありがとうございます。

話題提供

司会： それではこれからは個別に、今日は皆さん湯崎知事に聞いてみたいことを持ち寄ってもらいましたので、まずは庄原実業高校の勝部智也さんから、知事に話題提供と聞きたい事よろしくお願いします。

参加者①

勝部： 庄原実業高校の3年、勝部です。
湯崎知事は、農業クラブというものは御存知ですか。本日は全国的な組織がある農業クラブの活動と、庄原実業高校について簡単に紹介させていただきます。
広島県には農業に関する学科を設置した高校が6校あります。吉田・世羅・沼南・油木・西条農業・庄原実業の6校です。
日本学校農業クラブ連盟というものがありまして、それは昭和25年に「科学性」「社会性」「指導性」の育成を目標に、農業を学ぶ高校生が交流、研究、発表等の活動をおこなって、主体的に農業活動を進めるために全国組織として結成されました。つまり全国の農業高校生は全員が農業クラブ員であり、毎年、農業高校の甲子園ともいえる全国大会

が開催され、全国のクラブ員同士で切磋琢磨する場が設けられています。

主体的な発表会と競技会は御覧のとおりです。まず県大会で6校の中から広島県の代表が決まり、その後、中国ブロック大会を経て全国大会へ出場することができます。

庄原実業高校、本校は御覧の4学科に分かれており、科目ごとに学年が上がるごとに専門性が増していきます。こちらの写真は、それぞれの学科の特色が特に出ているものを集めてみました。湯崎知事は、この中で気になる写真はありますか。

司 会： 知事、この中で気になる写真ということですが。

湯崎知事： 横からなので見えにくいところがあるのですが、FFJのあれは作物で絵を書いた？

勝 部： はい。これは環境工学科の2年生が作るものなのですが、お米を植えて、そういう絵を作っています。

湯崎知事： これはお米なのね。

勝 部： はい。

湯崎知事： 何かハトの羽の切れ目まで入って、あれは後から刈って入れるの？最初から？

勝 部： いえ、先ほどありました平板測量というものがあるのですが、平板測量を使って絵を田んぼに書くんです。それでそこに沿って苗を植えていくという形です。

湯崎知事： すごく細かいところまでできるんだね。すごい技ですね。

司 会： これもスイカですか。

勝 部： そうですね。

司 会： えらい大きいな。これは相当大きいですね。

勝 部： はい。それは生物生産学科の1年生で作るものなのですが、地域の人と共同で作っていくという。

司 会： 見事な活動ですね。

勝 部： 今日、お持ちしたものなのですが、生物生産学科の生徒が作った梨とお米です。

司 会： これは知事に。

勝 部： はい、今日プレゼントで。

湯崎知事： ありがとう。立派な梨。

桐 尾： これは私の生活科学科が、こういうものを作っています。

湯崎知事： ポプリ。

桐 尾： 私が作りました。

湯崎知事：ほんとに、ありがとう。どんな香りなんだろう。

司 会： どんな香りですか。

桐 尾： すみません、去年のものなのであまり覚えていません。

司 会： 正直ですね。

湯崎知事： あきさかり、有機栽培。

司 会： お米、有機栽培いいですね。

湯崎知事： これは梨、出した方が分かりやすいね。

司 会： この梨、勝部さん。

勝 部： おさごーど (Osa-gold) という品種なんですけど、特別栽培農産物という認証を得てまして、昨日香港に輸出したばかりのものになります。

湯崎知事： ああ、香港にね。

勝 部： 去年は100キロ輸出したんですが、今年は175キロ出荷することができました。

司 会： 輸出が増えている。すごい。

勝 部： はい。目標が200キロなんです。それに近づけるために出荷の量を増やして。

湯崎知事： 100キロって何個ぐらいになるのざっと。これでどのぐらいだろう。これで1キロぐらいあるかな。

勝 部： 1キロぐらい。

湯崎知事： 1キロぐらいあるかな。1キロ4個だと400個ぐらい。

勝 部： それぐらいです。それで梨の裏にQRコードがあるんですが。

湯崎知事： あります。

勝 部： これを読み取っていただくと使用した農薬や、化学肥料の詳細が表示されるようになっています。

司 会： 今、知事、本当にQRコードをやったださるんですか。すごい時代ですね。

湯崎知事： すごい時代ですよ。QRコードってそういうものですよ。

出てきた、出てきましたよ。

司 会： どうですか。内容的には。

湯崎知事： 節減対象農薬，当地比5割減。栽培責任者，庄原実業高校，岸本一郎。

司会： 岸本一郎さんは誰ですか。

勝部： 庄原実業の先生です。

司会： 先生ですね。

湯崎知事： すごいですよ，節減対象農薬の使用状況，プロピネブ1回，ヘキサコナゾール1回とか，ずらっと並んでいる。

司会： 農薬の量が何を何回使ったというのが全部出てくる。これは安心ですね。

勝部： それでお米の方なんですけど，あきさかりとうい品種で有機栽培にしたものになります。新米は収穫がまだなんですけど，今日お持ちしたのは昨年度の古米になります。こういった生産加工という活動も農業クラブの活動の一つになります。

司会： こうやって聞いていると，すごくいいことばかりに思うのですが，何を課題とか感じているんですか。

勝部： 農業クラブの活動をしていて思うのが，高齢化が進んでいるので農業をする人が減っていて，そのためにも若い人に，農業に興味を持てるような活動をしていきたいと思っています。

知事として，若い人に農業に興味を持ってもらうには，どうしたらいいと思われませんか。

司会： ぜひお願いします。

湯崎知事： すごく単純なんですけど，やっぱりかっこよくなるというのは，大事なんじゃないかと思うんです。農業がかっこいいと。

それで結構，今若い人というか，おじいちゃん，おばあちゃんだけじゃなくて，40代とか50代とかでも，すごく活躍している農家の方いらっしゃいますよね。そういう皆さんにかっこよく農業してもらって，それこそデジタルを使ったりということも含めてです。それからやっぱり基本的なところとして，農業をやって，しっかり生活ができるということを作ること大事ですよ。農業やっているんだけど，すごく貧乏でかわいそうだなみたいなのだと，なかなかたくさんの人にやろうと思ってもらえないので，農業やったらかっこいいし，お金もちゃんともうけて生活ができるというのを，みんなに見てもらって，それが大事かなと思っています。

農業って大変なところってあるじゃないですか，それだけにこういう何ていうか，かっこよさだとか，そういうものも大事なんじゃないかなと思います。

若手の農家の皆さんと話す機会があったりすると，みんな農業でそれなりに儲かっている人たちがいるので，ランボルギーニとか買ってくださいよというんですよ。本当にフェラーリ買った人がいたりして。

農業やっていたら，こんなにいい夢を実現できるみたいな。そういうふうにいっているんですけど，なんとなく，あまり派手にしているといけないんじゃないかみたいなところが，農家の皆さんにまだあったりするんで，でもランボルギーニって，もともとトラクターから始まっているんですよ確か。

司会： そうなんですか。じゃあ，ある種原点に立ち返っているというやりましょう勝部さん。この話をそのまま覚えておいて。

勝部： はい，分かりました。

司会： ランボルギーニに乗った勝部さんに会うのをほんと楽しみにしていますよ。ありがとうございます。

藤原さんはどうですか。周りに田んぼとか畑もある環境で育ったと思うのですが，話聞いて何かこうしたらいいんじゃないかなとか，逆に勉強になったこととかどうでしょうか。

藤原： 中学校のときに高校の体験授業があって，私は行っていませんけど友達が実業高校に体験に行ったときに，そのときは比婆牛を使った生春巻き作ったといっていたのですが，すごく楽しかったといっていたのを聞いて，それまでは私の周りにも田んぼとか畑とかあるんですけど，農業って大変だし，きつそうだなというイメージがすごく強かったんですけど，そういうものを作って食べて，楽しいという一面もすごく大きいんだなということに気付かされました。

司会： それは大事なことですね。同年代のSTU48の峯吉さんとかは，農業をやっている同年代が頑張っていて，ランボルギーニも一例だと思うのですが，もう一例，勝部さんに引き出してほしいなと思って，こんな形で農業をやっていたらかっこいいなとか。

峯吉： そうですね。私も小さい頃に畑を手伝ったりしたことがあるんですけど，真夏の暑い中

- でも大変なことをやらなきゃ駄目じゃないですか。私は面倒くさがり屋なので、正直、もっと簡単に手軽に室内でもおいしい果物ができるといような、これから世の中がなくなっていったら、すごくかっこういいなと思います。
- 司 会： 勝部さん、そうなんですよでも結構ですし、そんなに甘くないんだよでも結構ですけど、今聞かれてどうですか。
- 勝 部： そうですね。最近だったらコンピュータを使って、全自動で農業することができたりするので、峯吉さんが言われていた室内で農業するというのは、ちょっとずつ可能にはなってきました。
- 司 会： 何かかっこういい農業に見えてきた感じがします。勝部さん、いろいろとありがとうございました。
- 勝 部： ありがとうございました。
- 司 会： 続きまして東城高校の中神さん、話題提供といろいろと聞きたいことお願いしたいと思います。中神さん緊張しますね、お母さんが来ていますものね。お母さんが明るい方で。

参加者②

- 中 神： 東城高校2年の中神悠那です。
- 今日は学校を代表して、東城高校が抱える課題について知事に知っていただき、そして相談にのっていただければと思います。
- 東城高校のことを知ってもらいたいので、東城高校の良いところ課題を紹介したいと思います。
- まず東城高校の良いところを紹介したいと思います。
- 東城高校の良いところ、まず一つ目は、1人一役が可能なところ。東城高校の生徒数は66名とかなり少ないですが、学校行事などで一人ずつ大切な役割を持つことができ、私はあんなにやっているのと思うことは、ほとんどありません。
- 東城高校の良いところ、二つ目は、全校が力を合わせやすいところ。やはり人数が多かったら、誰かがやってくれるだろうと思ってしまう人が出てくると思います。ですが少人数だと一人一人が自分がなくてはという思いと責任が芽生え、結果的に全校の結束を高める要因になっています。
- 東城高校の良いところ、三つ目は、町とのつながりが強いところ。例えば東城高校がこれをやってみたいといえ、たくさんの方々が協力し、支えてくださいます。だから東城高校は、他ではできないようなことに挑戦することができます。
- その他にも東城応援隊という、東城高校生有志で組織するボランティア団体があり、地域のイベントで案内をしたり東城町のマップを作ったりと、学校と地域とで深い関わりがあります。
- しかし、そんな東城高校も新型コロナウイルスの影響で、生徒が楽しめる行事が減りました。
- さらにこれまで学校行事を引っ張っていた先輩方が卒業し、新型コロナウイルスにより行事ができず、行事での盛り上がり方を知らない生徒がほとんどになっています。そうしたことにより魅力の発信ができず、生徒数の減数に拍車がかかっています。
- 次に東城高校の課題を紹介します。東城高校の課題一つ目は生徒数の減少です。先ほど説明したように、中学生などに東城高校の魅力の発信ができず、コロナ禍以降、入学者数が20名程度にとどまっています。
- 東城高校の課題二つ目は、つながりの再構築が必要なところ。これまであった、先輩と後輩の縦のつながり、地域との横のつながりが薄れていることにより、高校だけでなく地域も元気がないように感じます。
- それなので東城応援隊の活動を活発化させて、先輩、後輩のつながり、そして地域とのつながりを再構築する必要があると思います。そして元気がないのは東城高校だけではなくありません。コロナ禍で東城の町も元気がないように感じます。
- そこで昨年私たち2年生は、元気のない東城町を明るくすべく「光で街と人をつなげる」をテーマにイルミネーションの作成を行いました。このイルミネーションの企画は、どんなテーマで行うか、どんなデザインにするか、全員で考え実行しました。先生や生徒だけでなく、地域の方や市役所の方も協力していただきました。
- この企画によって周りを見て、自分から動けるようになったり、率先して挨拶ができ

るようになったりと、態度など成長することができました。

それに加え高校生が行ったということで、多くの方が楽しんでくださり町の活性化につながりました。そしてたくさんの方々からの励ましの声や、良かったよという声をいただき、大きな計画をやりきった達成感と感動を味わうことができました。

この経験を踏まえ、湯崎知事に質問です。私は東城高校と東城町を元気で魅力のある町にするには、地域との交流が大切だと思います。そこで東城に行ってみたくて思ってもらえるような PR 案を考えてきました。この中でベスト3を選んでもらえますか。その他、知事のよいアイデアがあれば教えてください。

司 会： 新しい切り口。この中からベスト3を知事に選んでもらいたいと。

知事に選んでもらいながら、せっかくなので参加の皆さんも、ホワイトボードにいいと思うものを二つずつ書いてください。最終的には合議制でベスト3、そっちらも決めたいと思います。知事いかがですか。ベスト3難しいと思いますが。

湯崎知事： これはやっぱり一番上にあるのを、選んでほしいというのがあるよね。フェスは外せない。みんな書くのに言っちゃっていいですか。

司 会： 知事バージョンと合議制バージョンでお願いしたいと思います。

湯崎知事： これはやっぱり地域の人とのつながりをね、再構築しなきゃいけないということだから、アートワークショップ。あとギネスに挑戦もいいですよ。これは地域も高校生も参加できるので、ギネス何がいいですかね。

司 会： 何が、いいこといっぱいありますよね。逆に生徒数が1学年20人前後ということで。

中 神： 私が考えているのは、1分間で何人ハイタッチできるかというのがあって、それなら地域の人とかも一緒にできるかなと思って。

司 会： いいじゃないですか。ただそれは技能だいふ必要ですよ。

湯崎知事： ハイタッチを何回やるか。

中 神： 1分間で。

湯崎知事： 1分間で。それは1人の人が？

中 神： そこまでは分からないですが。

司 会： 俊敏性とか練習は必要になってきますよね。

湯崎知事： ダダダダダ…… みたいな。

司 会： あとは前にいていたのは、テストの答案が返ってくるのが早いって言っていましたよね。ものすごく回転が早いって。

湯崎知事： 先生がすぐに採点できちゃう。

司 会： 先生もまんざらではない。すぐに返ってくるって言っていました。

湯崎知事： それはいいかどうかは、よく分からないですよ。

司 会： 確かに。

湯崎知事： すぐに結果が分かっちゃう。

司 会： 同年代の意見を聞いてみましょう。知事はアートワークショップ、ギネス、あともう一個。

湯崎知事： フェス。

司 会： フェス。この3つ。

それでは STU の峯吉さん、ちょっと見せてもらってよろしいですか。

峯 吉： 私は一番上のフェスと下のお祭り。高校生がメニューを開発して、祭りで何かおいしい食べ物をいっぱい出してくれたら、めちゃくちゃ行きたいなと思いました。

司 会： 食べ物どんなものがあったら行きたいとか、どうですか。峯吉さんの感性からすると。

峯 吉： なんだろう、焼きそばとか。

司 会： 意外と普通でしたね。

峯 吉： 後はきゅうりの1本づけとか、めっちゃ好きです。

司 会： 同年代の会話みたいじゃないですか。もっとおしゃれなのがくるのかなと思ったら分かりました、ありがとう。

峯 吉： きゅうりまるかじりしたいです。

司 会： 定番で勝負と。

庄原実業さんはどうでしょう参考に。桐尾さんせっかくなんで。

桐 尾： フェスと、ギネスですね。

司 会： ギネスはどうですか、これだったらみたいな。まだないですか。

桐 尾： 今あるギネスが、ちょっとよく分からないのですが。何か楽しい感じのものなら、盛り上がりあってわあーなるかなと。

司 会：　　そうですね，楽しいものだとわあーってなりますものね，僕もそう思います。ありがとうございます。

女 性：　　新庄高校のお二人はいかがでしょうか。

司 会：　　高校でメニューを開発し祭りなどで出店するのと，カーブの選手と交流です。カーブはやっぱり広島で，私の家族もカーブがすごく好きなんです。カーブ好きな方多いと思うので，カーブのファンの方も東城の開催地に来られて，同時に東城についても知ってもらうこともできるかなと思う。多くの人に東城を知ってもらうこともできるのかなと思って，いいなと思いました。

司 会：　　ありがとうございます。

湯 崎 知 事：　　皆さんの意見をいろいろと聞いて，すみません一応開票させていただきます。開票率100%。1位フェス，2位ギネス，そして同率2位がお祭りということになりました。開票結果を受けまして湯崎知事，フェスがトップ当選ということなんですが，フェスの課題も含めて，可能性も課題もあると思うのですが，何かいかがでしょうか。

司 会：　　ありがとうございます。

湯 崎 知 事：　　フェスって，今いろいろなところでやったりしていると思うのですが，場所とかなかなか確保が大変かもしれませんが，何ていうんでしょうか，一つのブームみたいな感じもあるから，すごく人が集まって来てくれて楽しいんじゃないかと思えますよね。

司 会：　　STU48の力も借りながらぜひ。

湯 崎 知 事：　　ぜひ呼んでください。お願いします。

司 会：　　ここで仲良くなっていってくださいね。よろしくお願いします。

湯 崎 知 事：　　東城高校のこといろいろと分かりました，どうもありがとうございました。続きまして，広島新庄の藤原さんをお願いします。

参加者③

藤 原：　　新庄高校の藤原です。

私たち新庄高校の1年生は，学校の課題で社会問題から大学についての学部を結びつけて，将来について知ろうという総合的な学習のようなことをしたのですが，その中で私たちは，日本のGDPや円安について調べ，日本の経済について学びました。

少しパワーポイントを使って紹介させてください。私たちは今の日本のGDPが低下しているという社会問題に着目し，どうしたら向上させることができるのか調べてみました。まずGDPとは，その国の生産の規範や，国の豊かさを示す指標のことです。これは世界のGDPの推移になります。これを見ると世界的には上昇傾向にあるのに対し，日本はあまり上昇していないことが分かります。

1970年～1990年ごろ日本は，高度経済成長期で最高期を迎え，アメリカに次ぎ2位なっていました。今では発展途上国や韓国にまで抜かれてしまっています。日本のGDPがこのように低くなってしまった理由は，よくコロナ対策による封じ込めを優先しているからだという人もよくいると思いますが，実はコロナウイルスの感染が拡大するはるか前から，日本のGDPの成長率は低くなっています。その主な理由として二つあり，一つ目は低賃金重労働が行われていることとなります。また，日本の企業はブラック企業といわれる，サービス残業は当たり前，成果が正当に評価されないなどの企業が多くあると思います。二つ目は円安です。日本は今までにないくらい円安のため，海外投資が少なくなったり，物価が上昇したりしていることがあると思います。

では逆にGDPの高い国では，どのような対策をしているのか調べてみました。一つ目は，高い教育水準の確保です。大学等で通信事業の専門分野を重視するなど，教育の質を高くすることで，多くの分野でトップクラスの人材を育成していました。

次に公用語を英語にしたことです。そうすることでアメリカをはじめとする企業を参入しやすくしています。最後に自由な働き方を推進したということです。労働市場にさまざまな産業を採用したり，規制を緩和させたりすることで，外資家の企業にとって活動しやすくなり，労働生産性の向上につながりました。また社会保障を安く充実させたり，待遇をよくすることで，生活の質を高くことができたり，労働時間の融通がきき，休暇が取りやすいなど女性も社会進出しやすい環境を作り，女性の社会進出を促進し，高い労働性につながっていることが分かりました。最後にこれまで調べてきたことを踏まえて，日本がGDPを上昇させるために，するべきことを考えてみました。

まず低賃金重労働をやめ，労働環境を整えることです。次に充実した保険や労働に見合った対価を用いることが必要だと思いました。次に少子高齢化を抑制し，労働力や税金を増やすことです。またもっと女性も社会進出しやすい環境を整えることも必要だと

思いました。

これで発表を終わります。御清聴ありがとうございました。

これを踏まえて、日本の経済に私は興味が湧いて、日本の現状をこの課題に取り組むことで知ることができました。国の意見とかよく聞くのですが、この国の状況について湯崎知事の考えや意見を伺いたいです。

司 会： 知事、これだけ調べてもらったら、すごく納得なんですけれどもね。

湯崎知事： 何かねすごく勉強して。この最後の GDP という、これはどこかにあったんですか。

藤 原： はい。

湯崎知事： なるほどね。とてもプレゼンテーションもよくまとまって、よかったなと思いました。

まさに指摘してあるとおりで、例えば女性の働きやすさだとか、そういうことはすごく大事だし、みんなはもう多分知らないと思うんだけど、僕が就任した当初のときに全国で初めて育児休暇をとった知事になったんです。

それは何かというと、女性の働きやすさを進めていく。なぜそれを進めていかなければいけないかということ、まさに今プレゼンしてもらったように、女性の力を社会でもっと活用していくことが、それこそ GDP の向上につながっていくし、女性が活躍するためには男性が、これまで女性にずっと負担が偏っていた、いろいろな家庭内のことですよ、子育てとかもそうなんだけど、それを負担していかないとそれが実現できないので、それなので男性が子育てを、ちゃんと役割を果たすということをやらなければいけないということで、当時は男性の育児休暇とか休業とか、どれくらいあったかな3%とか4%ぐらいの人しかとっていなかった。広島県は今18%近くぐらい取っていると思うのですが、18はいいないかな。それでもだいぶ増えたんですがね。すごく大事なことだし。

低賃金というの、賃金が伸びていないことがすごく課題で、これは国でも例えば最低賃金を上げようという取組をしたりとか、岸田総理の分配というのは、そういうことですよ。労働者に分配していくことをもっと進めていくというの、国も一生懸命やろうとしていますが、とても大事なことだと思います。

司 会： 県の政策なんかでも英語の教育に力を入れたりとか、あるいは労働環境とか働き方とか、すごく言っているじゃないですか、それがこういうふうにならないうちに GDP につながっている。逆に藤原さんの話を聞いて、すごく納得なんです。

道徳的な話に思えて我々の働きやすさとか、生きやすさを変える上でも、一つ一つ訴えていってほしいことって、自分に跳ね返ってくるんですね。

湯崎知事： そうですね、やっぱり GDP を増やすことを最終目的にしているわけではないですが、特に1人当たりの生産性が上がっていくということは、まずベースにある豊かさというかね、よく物質的な豊かさじゃないだろうという話がありますが、それはやっぱり一定のものがあって、初めてそういえるわけであって、それこそ世界の中には今日明日、食べるものも難しい、今ウクライナの戦争で、食べ物が手に入らなくなっている国があって、まさに飢餓に直面しているような国もあるわけですが、日本は今そうならないですよ。

小麦が高いとなっているけれども、まだ小麦買えるわけです。それは、やっぱり日本が経済力があるからそれができるわけであって、それができない国というのが生まれてくる。

だからそういう意味での経済力はすごく大事だし、そこがベースとしてあって、その上にいろいろと成り立っているということからいうと、今のようないろいろな方策で、まず経済的な豊かさをしっかりと確保していくというのは、とても大事なことだと思います。

司 会： これほど大きい問題になると一気に答えて、なかなかないんでしょうけど、それでも、こういうプレゼンテーションを聞いていると、こういった高校生とか若者、これだけ理路整然と考えられるのが広島県内にいるという。何かちょっと誇らしいといえますか、胸が張れますね。

湯崎知事： 広島県は教育に力を入れていますから。

司 会： 証明してくれたと。藤原さんありがとうございました。

続きましては、同じく広島新庄高校の井原さん、今日はぜひ知事に尋ねたいことがあるということをお願いします。

参加者④

井原： 私は国際関係に興味があって、国際の経済とか教育に興味があるのですが、知事は高校時代にアメリカに1年間留学されたり、大学もスタンフォード大学の経営大学院で学ばれたりされていますが、私も将来、留学とかすごくしてみたくて、海外にも行ってみたいのですが、留学とかの経験を経て得られたものとか、留学をするメリット、デメリットを聞いてみたいと思ったのと、最近広島県は、2021年ぐらいに叡啓大学ができたじゃないですか、また、少し前に叡智学園ができたりにして、広島県も国際関係に力を入れているのかなというのを聞きたいです。

湯崎知事： そうですね。まず国際関係というか、教育の中での国際化というところは、これもずっと取り組んでいることですが、それこそもう12年以上前になるわけですが、就任してすぐにやったのは、皆さん私立だから必ずしもその中に入っていないんだけど、広島県の公立高校、全高校が外国の高校と姉妹提携を結ぶようにしたんです。これはそうはいってもなかなか難しく、交流をずっと継続するのはなかなか大変。

庄原実業も東城高校も、姉妹高校あるはずだね。それでまず海外との交流を増やすとか、あとは高校生の留学を支援するというのもやっていて、留学生も増やすということをやったりしていますが、叡智学園というのは叡智学園は叡智学園だけなので、ちょっとあれですが、日本人が40人で海外の生徒が20人、そういうクラスというか学年単位で勉強をしていくという。全寮制で今やっていますが、そういうこととかやっています。

留学のメリット、デメリットですが、デメリットはないと思うんです。人生経験していて、自分の選択したことがデメリットってということないと思うんですよね。何でもメリットとかデメリットとか、プラスとかマイナスってというのは、自分がどうそれを取り込んでいくとか、自分がそこから何を学ぶかということで、プラスにもなるしマイナスにもなることだと思うので、自分がこれをマイナスだと思っちゃったら、マイナスにしかないないし、その中から学ぶものを見つけることができれば、それは全てプラスになると思うんですよね。

留学とかはまさに若いときに、自分の全く知らないところに行って、いろいろな発見があるので、それは基本的にはプラスになると思いますし、僕が一番感じたこととか学んだことは、1年間アメリカに行ったわけですが、世界中人間は同じだという。よく文化が違うとか、いろいろと言われますが人間は同じだと、その発見が一番大きかったですよね。

司会： それって大きいんですよね。当たり前のことのようで、普段それって意識しないじゃないですか。

湯崎知事： そうなんですよね。人類みな同じとかよく言われたり、逆に異文化なんで、それを理解することが大事だという話。それは逆に言うと違いについて、とても着目していることだと思うんですが、やっぱりアメリカ人でも何人でも、ご飯食べて寝て、楽しかったら笑うし、悲しかったら泣いているし、基本は同じなんですよね。

司会： それが知れたからこそみたいなこともあるでしょうし、実際今、井原さん出されるといことは、今コロナ禍でなかなか海外渡航も、昔ほどノーマルと思えないような状況で、迷いもどこかであるのかなと感じるんですが、実際どうですか留学に関して、今自分の頭の中というのは。

井原： まだ考え中なんですけど、日本の大学4年行ったあとに、アメリカの大学院に入学したいなというのはあります。

司会： 知事、多分井原さん自分で決めるとは思うんですが、背中を押すようなあれも欲しいと思うんです。どうですかその辺で、行ったらいいよという部分。

湯崎知事： それはぜひ行ったらいいと思います。何を勉強したいかということもあると思うんですが、日本だけで勉強することでは得られないことはたくさんあると思いますね。大学院だけど、大学院まで待つ必要もないと思うんだよね。いつでも行きたいと思ったときに行けばいいと思うし、よく最近の高校生が言うのは、受験なんかでも浪人したくないとか、高校で留学すると1年遅れちゃうとか、それをすごく嫌がる人たちがいるんですが、人生、社会人になったら1年とか2年とか全然関係ないですよ。

司会： 全然、そうですね。

湯崎知事： 全く関係ないので、これは本当に関係ないから。特に浪人が嫌だというのが、本当に僕としては理解できないというか、僕の子どもたちもみんなと同じ世代で、本人たちも

嫌がっていたし友達も嫌がっているんだけど、嫌がっている人が多いんだけど本当に関係ないから。

司 会： 確かに5年長生きして、5年長く活躍して好きなことやったほうがいいですね。1年浪人で、極論かもしれません。

残り時間わずかになってきたのですが、もう1個だけ短くなんです、中神さん知事に聞きたいことがあって、ややシリアスな問題だったりするので、答えられる範囲でお願いしたいと思います。

中 神： 県北地域で辺地だと思いますが、過疎化に伴い学校の生徒数も減っていて、最悪廃校といったことも考えられています。この辺りについて知事の意見が聞きたいです。

司 会： 可能な範囲でぜひお願いします。

湯崎知事： 今、東城高校が学校の在り方を見直すという基準に、引っかかっちゃっているというか、県内今3校あるのですが、その1つになっているんですよ。これはなかなか難しい問題なんです、やっぱり地域を挙げて支えていくということが、すごく大事なことで、先ほど中神さんがプレゼンしてくれた、先輩とのつながりだとか、あるいは地域とのつながりが今薄くなっているところがありましたよね。それでコロナでまた入学者が減っているというところがあると思うんです。

今、逆にそういう状況になっているので、地域の人たちも、とても危機感が生まれていると思うんです。それなので地域の皆さんと、まさに先ほどのような横のつながりをしっかりともう一回強めていって、そして先輩もとても大きな鍵になるじゃないですか、盛り上がり方が分からないということだけど、それはまた先輩に来てもらって、それを復活させていくとか、そういうことを通じて活性化をしていくということが、とても大事なことだと思いますね。

これまでも県内でそういう廃止をするか、あるいは他の分校になるかというところに来た学校が、復活して元どおりというかなっている学校もあるので、それはすごく地域の皆さんの支える力が大きかったの、ぜひ地域と一緒に頑張ってもらいたいと思います。

司 会： ぜひ今日決まったじゃないですが、フェス実現に向けて頑張ってください。ありがとうございました。

皆さんからいろいろと疑問とか話題提供いただいたんですが、改めて代表して新庄高校藤原さん、今日いろいろな人の話を聞いたり、知事の聞いて感想をひと言お願いします。

藤原： 自分の高校だけだったら、多分気付かなかったこととか、実業高校の皆さんの取組とか活動とか、東城高校さんがイルミネーションをしたというのを知ることができたし、知事にいろいろな視点からお話を聞くことができて、いい思い出にもなったし、これからの自分の生活や学校生活に生かしていけたらなと思いました。

司 会： ありがとうございます。

そして峯吉愛梨沙さん、改めて今日の感想いかがだったですか。

峯吉： そうですね、正直お話を聞くまでは、GDPのこととかも全然知らなかったんですが、そのことについて、たくさん調べていてすごいなと思ったし、農業の魅力とかたくさん伝えていけたらなと思うので、ぜひフェスとか呼んでください。

司 会： フェスのときは、よろしくお願いしますね。

峯吉： お願いします。

司 会： 年代を問わず、焼きそばときゅうり、きゅうり庄原さんがやってくれますので、庄原実業さん、よろしくお願ひしたいと思います。

お時間迫ってまいりました、湯崎知事、高校生に最後にエール、メッセージをお願いします。

湯崎知事： 本当に今回もすごく積極的でいろいろな課題だとか、自分ごととして取り組んでくれている高校生の皆さんに参加してもらって、とても頼もしく思いました。

これからの未来を作っていく皆さんなので、ぜひこのまま頑張ってもらいたいと思います。

司 会： 分かりました。

湯崎知事、今日はお忙しい中どうもありがとうございました。

湯崎知事： どうもありがとうございました。

閉会

司 会： 以上を持ちまして、「第4回 湯崎知事と語ってみた」 supported by 田宮パーツを終了いたします。